

【漢字・読み】 資料集

安芸	あき	広島	の旧国名	日本三景の宮島がある
欠伸	あくび			
糾える	あざなえる			
紫陽花	あじさい			
汗疹	あせも			
綽名	あだな			
艶姿	あですがた			
普く	あまねく			
非ず	あらず			
安寧	あんねい	社会が穏やかで平和なこと。	安泰。	
烏賊	いか			
遺憾	いかん	期待したようにならずに、心残りに思うこと。	残念に思うこと。	
衣桁	いこう	室内で衣類などを掛けておく道具。		
漁火	いさりび			
偉丈夫	いじょうふ	体が大きくて たくましい男。	また、人格のすぐれている男	
徒に	いたずらに			
無花果	いちじく			
公孫樹	いちよう			
一張羅	いっちょうら	とっておきの一枚の着物		
苟も	いやしくも	仮にも		
允可	いんか	許す事。許可		
隠蔽	いんぺい	都合の悪い物事を隠すこと		
胡散	うさん	胡散臭い		
団扇	うちわ			
疎い	うとい			
恭しい	うやうやしい	相手を敬って、礼儀正しく丁寧である。		
胡乱	うろん	正体が怪しく疑わしいこと		
絵空事	えそらごと	現実には有り得ないこと		
閲覧	えつらん			
衣紋	えもん	衣服、身なり		
冤罪	えんざい	濡れ衣		
邑楽郡	おうらぐん	群馬県の地名		
臆面	おくめん			
小千谷市	おぢやし	新潟県の地名		

女川	おながわ	宮城県の市
万年青	おもと	ユリ科の多年草。一年中青い葉をつけている
慮る	おもんばかり	周囲の状況などをよくよく考える。思いめぐらす。
快哉	かいさい	ああ愉快だと思うこと。胸がすくこと。「一を叫ぶ」
懐柔	かいじゅう	うまく手なずけ従わせること。抱き込むこと。
乖離	かいり	そむき離れること。「人心から—した政治」
花卉	かき	鑑賞用になる美しい花をつける植物の総称
確執	かくしつ	自分の意見を強く主張してゆずらないこと。またそこから起こる争い
攪乱	かくらん	かき乱すこと。混乱が起きるようにすること。
上総	かずさ	千葉の旧国名
割愛	かつあい	惜しいと思うものを手放す
過渡期	かとき	古いものから新しいものへと移り変わっていく途中の時期。
庇う	かばう	
南瓜	かぼちゃ	
蚊帳	かや	
搦め手	からめて	相手の弱点。相手が注意を払っていないところ。「一から批判する」
喚起	かんき	呼び起こすこと。「注意を一する」
寛恕	かんじょ	度量が広く、思いやりの深いこと。
完璧	かんぺき	
生一本	きいっぼん	純粋で混じりけのないこと。一途に物事に打ち込んでゆくさま
気概	きがい	
象潟	きさかた	秋田県の地名
気色	きしよく	顔色。表情
忌憚	きたん	いみはばかりなこと。遠慮すること。
啄木鳥	きつつき	
虐待	ぎやくたい	
嗅覚	きゅうかく	
矜持	きょうじ	誇り。プライド
脇息	きょうそく	脇に置いてもたれかかるための安楽用具。
強力粉	きょうりきこ	硬質小麦。強力粉はパンや麺、中力粉はうどん、お好み焼き、薄力粉は菓子や天ぷらに使用。
曲者	くせもの	
国後	くなしり	北方領土の一つ
燻ぶる	くすぶる	
玄人	くろうと プロ	
警咳	けいがい	咳払い しわぶき

境内	けいだい	
怪訝	げげん	不思議で納得がいかないこと。「—な顔をする」
蓋し	けだし	考えてみるに。思うに「—当然である」
狷介	けんかい	頑固で自分の信じることを硬く守り他人に心を開こうとしないさま
喧伝	けんでん	世間に言いはやし伝えること。盛んに言いふらすこと。
厚誼	こうぎ	厚いよしみ
巧拙	こうせつ	上手いか下手なこと
姑息	こそく	一時しのぎ
忽然	こつぜん	物事が一瞬にして現れたり消えたりするさま。「—と姿を消す」
辛夷	こぶし	
古文書	こもんじょ	
強面	こわもて	
災禍	さいか	
寒河江市	さがえし	山形県の地名
雑魚	ざこ	
薩摩守	さつまのかみ	薩摩守平忠度(さつまのかみただのり)に掛けて、電車などに無賃乗車する人。
詐病	さびょう	
鱒	さわら	
桑港	サンフランシスコ	
強肴	しいざかな	懷石料理で酒を勧めるために本来の 献立に加えて出す肴。
直談判	じかだんぱん	当事者同士が直接話し合うこと。
時雨	しぐれ	
嗣子	しし	親のあとをつぐ子。あととり。
宍粟市	しろうし	兵庫県の市
悉皆	しっかい	ことごとく。一つ残らず全部
設える	しつらえる	
東雲	しののめ	夜明け前に茜色にそまる空を意味する
四万十川	しまんとがわ	高知県の川
下総	しもふさ	千葉の旧国名
積丹	しゃこたん	北海道の地名
洒脱	しゃだつ	さっぱりしていて俗気がないこと。
終焉	しゅうえん	生命が終わること。死を迎えること。臨終。最期。「時代の—」
愁嘆場	しゅうたんば	芝居で登場人物が嘆き悲しむ所作のある場面。実生活上の悲劇的な局面にもいう。
種苗	しゅびょう	植物の種と苗。

掌握	しょうあく	
成就	じょうじゆ	物事が望んだとおりに完成すること。「悲願が—する」「大願—」
尚早	しょうそう	まだその条件がととのっていないこと。まだ早すぎること。「時期—」
逍遙	しょうよう	散歩。そぞろ歩き。坪内逍遙は小説家
所望	しょうぼう	望みとするもの。望む事柄。
塵芥	じんかい	ちりあくた 値打ちのないもの
真贋	しんがん	偽物と本物。「—を見分ける」
進捗	しんちよく	物事がはかどること。「工事の—状況」
吹田市	すいたし	大阪府の地名
縫る	すがる	
漱ぐ	すすぐ	
須らく	すべからく	(必須から)当然。ぜひとも。「学生は—く学問を本分とすべきである」
凄惨	せいさん	目をそむけたいような、むごたらしい様子。「—な事故の現場」
昔日	せきじつ	
折衝	せつしょう	
善後策	ぜんごさく	
薩摩川内市	せんだいし	鹿児島県の市
造詣	ぞうけい	学問・芸術・技術等についての深い知識や優れた技量。「—が深い」
叢書	そうしょ	種々の書物を、一定の形式によって順次刊行してゆくもの。シリーズ。
草履	ぞうり	
仄聞	そくぶん	噂で少し耳に入ること。人づてや噂などで聞くこと。「—したところ、」
唆す	そそのかす	
太公望	たいこうぼう	釣り人の代名詞
大団円	だいだんえん	
溺愛	できあい	
長ける	たける	他と比較してすぐれている。
黄昏	たそがれ	
荼毘	だび	火葬。「-に付す」
束子	たわし	
短兵急	たんぺいきゆう	急なようす。だしぬけ。
胆力	たんりよく	物事を恐れたり気おくれしたりしない気力。度胸。
知悉	ちしつ	ある物事について、細かい点まで知り つくすこと。「事情を—している」
嘲笑	ちょうしょう	
長広舌	ちようこうぜつ	淀みなく長々としゃべり続けること

追徴金	ついちょうきん	
月極	つきぎめ	「一駐車場」
続柄	つづきがら	
伝手	つて	手づる たより てがかり
敦賀市	つるがし	福井県の地名
溺愛	できあい	
出端	ではな	物事を始めようとする意気込み。「一をくじく」
投網	とあみ	
蕩尽	とうじん	財産などを使い果たすこと
図画	とが	広く象形的方法により表示されたもの一般を指す。
独壇場	どくだんじょう	独擅場(どくせんじょう)と同じ。その人の思うがままに活躍できる場
道修町	どしょうまち	大阪府の地名。江戸時代、薬種問屋が多かったせいで今も製薬会社本社がある
遁辞	とんじ	言い逃れの言葉。逃げ口上。「家主に対する一ではないのだろうか」
等閑	なおざり	いいかげんなさまの事
長押	なげし	鴨居の上などの側面に 取り付けた、柱と柱の間をつなぐ横材。
宥める	なだめる	
生兵法	なまびょうほう	十分身についていない兵法。また、未熟な知識。
納戸	なんど	衣服・調度をしまっておく部屋。
刃傷	にんじょう	刃物で人を傷つけるような争い。「刃傷松の廊下」(忠臣蔵)
懇ろ	ねんごろ	親しいさま
及位	のぞき	山形県の地名
野放図	のほうず	人を人とも思わないずうずうしい態度。横柄なこと。
麦秋	ばくしゅう	熟した麦を取り入れる、初夏のころ。
刷毛	はけ	
斜向かい	いはずむかい	
抜擢	ばってき	
埴生	はにゆう	みすぼらしい住処の事。「一の宿」
浜岡	はまおか	静岡の地名。
馬鈴薯	ばれいしょ	ジャガイモの別名
版図	はんと	一国の領域。領土。また一般に、勢力範囲。「版図を広げる」
鼻肩	ひいき	
直走る	ひたはしる	
逼迫	ひっぱく	行き詰まって余裕のなくなること。事態が差し迫ること。「財政が一する」
捻る	ひねる	
罷免	ひめん	

屏風 びょうぶ
枇杷 びわ
封殺 ふうさつ
不織布 ふしょくふ 繊維を織らずに絡み合わせたシート状のものをいう。
払暁 ふつぎょう 夜の明けがた。あかつき。
不束 ふつつか 能力・しつけ等が足りず、行き届かないこと。
不文律 ふぶんりつ 文章に明記されていない法や規律。慣習法。
伯刺西爾 ブラジル
吻合 ふんごう 物事がしっくり合うこと。一致すること。「双方の話が一する」
辟易 へきえき ひどく迷惑して、うんざりすること。嫌気がさすこと。「彼の我が儘には— する」
辺鄙 へんぴ 都会から離れていて不便なこと。
包容力 ほうようりょく
朴訥 ぼくとつ 実直で素朴な様子
綻ぶ ほころぶ
不如帰 ほととぎす
愛娘 まなむすめ
満艦飾 まんかんしょく 観艦式などに、軍艦が艦全体を信号旗・万国旗などで飾りたてること。
眉間 みけん
百足 むかで
宗像市 むなかたし 福岡県の地名
明晰 めいせき
網羅 もうら 残さず取り入れること
土竜 もぐら
百舌 もず
靄 もや
約定 やくじょう 約束してきめること。とりきめを 交わすこと。契約。「共同開発を—する」
葉莢 やつきょう 銃弾を押し出すために必要な火薬を詰める金属製の容器
雄渾 ゆうこん 雄々しくて勢いがいいこと 力強くてよどみのないこと
宥和 ゆうわ 大目に見る 「一政策」
油井 ゆせい 石油を汲み上げるために掘った井戸のこと
傭兵 ようへい
乱高下 らんこうげ 相場が激しく上下に動くこと。
罹災 りさい
梁山泊 りょうざんぱく 豪傑、野心家たちが集まる場所。中国山東省の地名。
坩堝 るつぽ 金属をとかすのに使うつぽ。「興奮の—」

老婆心 ろうばしん
態々 わざわざ
草鞋 わらじ

親切すぎて、不必要なまでに世話を焼きたがる気持。